



CASSIOPEIA—UHC達成に向けて、対象の5つの病院における、5つ星に輝く質の高い医療ケアサービスを目指して

JICA ルサカ郡1次レベル病院運営管理能力強化プロジェクト



2022年12月8日、ルサカのラディソン ブル ホテルで開催された、医療機器管理フィードバックワークショップにおいて、5つの総合病院に医療機器管理の質向上に用いるためのパソコンを、州保健局のDr.チョンゴおよびマテロ総合病院のDr.パテオに贈呈する法月チーフアドバイザー

JICAカシオペアプロジェクト、5つの総合病院を対象に医療機器管理フィードバックワークショップを実施

感染予防管理(IPC)に関する推進会議をルサカ州保健局で開催

インタビュー

『プロジェクトへの期待と5つの総合病院で認められた変化』
州保健局長が語る

フォトフォーカス

カニヤマ総合病院における5S活動



JICAカシオペアプロジェクト、5つの総合病院を対象に医療機器管理フィードバックワークショップを実施

カシオペアプロジェクトの活動の3つ目の柱は、医療の質を高めUHCを達成するために、チレンジェ、チャワマ、カニヤマ、マテロ、チパタの5つの総合病院での医療機器管理に焦点をあてています。質の高い医療サービスを提供するためには、医療機器が適切にメンテナンスされ、いつでも使用できる状態であることが重要です。



塩田専門家がグループワークを行う参加者にアドバイスしている

医療機器という言葉は、医療施設において医療目的で使用される様々な機器、装置、機械、器具を含みます。医療機器をすぐに使用できる状態に保つためには、適切な医療機器管理が必要です。ザンビアでは、医療機器の需要が増加しており、そのコストも上昇しています。また、ニーズとリソースのギャップも拡大しています。したがって、医療機器管理は、機器が効果的に機能し、良好な作動状態を維持し続けるために不可欠なものなのです。

医療機器を効率的に管理するため、適切なメンテナンスを行うことは機器の寿命を延ばし、質の高い医療サービスを提供するために必要不可欠なものとなります。

2022年12月8日、ザンビアのルサカ市にあるラディソンホテルでJICAカシオペアプロジェクトを通じて行われたワークショップの目的は、2022年5月4日に行われた前回の医療機器管理ワークショップで作成された5つの総合病院のアクションポイントからの進捗を共有することでした。またさらに、ルサカ州保健局(LPHO)から医療機器管理の標準的な方法を導入し、病院とその医療機器管理委員会を指導し、明確なワークプランを持ち、より具体的な医療機器のアクションポイントを策定し、この標準的管理によるアクションプランの実施に関する移行を確実にすることを目的としました。

州保健局長を代表して、健康増進・環境衛生・社会的決定要因課長のチョンゴ博士がスピーチを行い、ルサカの5つの総合病院におけるマネ

ジメント強化プロジェクトを通じて、JICAに感謝の意を表しました。JICAプロジェクトは、設備が適切に計画され、予算化され、調達され、適切な人材によって運用されることを確実にするために、このワークショップを実施しました。

プロジェクトチーフアドバイザーの法月医師は、5つの総合病院における医療の質が重要であること、そして病院に不可欠な医療機器の管理が重要であることを参加者に伝えました。以前は医療機器委員会が存在しない病院もあったが、現在では医療機器委員会が設置され、5つの総合病院では大きな進展があったことを紹介されました。続けて、プロジェクトでは、病院経営幹部とともに、策定されたバランススコアカードに則り、計画されている全てのことを達成するために努力が続けられており、それがに病院運営の持続可能性につながっていると述べました。さらに、「可視化は医療機器管理のスタート地点であり、重要なデータを把握するために、病院内の機器の現在の稼働状況を知ることが、この会議を開催した理由である」と述べました。また、病院経営幹部や州保健局に正しく報告することは、質の高いサービス提供のために重要な、病院間の良好なコミュニケーションとモニタリングを維持するための支援につながると指摘しました。つまり、プロジェクトのマネジメントの柱でもある「良いガバナンス」「データに基づく良い可視化」「継続的なトレーニングと教育による能力向上」が、質の高い医療を実現するための3つの要素なのです。

ワークショップでは、チレンジェ、チャワマ、カニヤマ、マテロ、チパタの各総合病院に、医療機器管理の質の向上を支援するノートパソコンが贈呈され、引き渡し式が行われました。



州保健局長の代理としてDr. チョンゴが医療機器管理フィードバックワークショップでスピーチを行っている



州保健局で医療機器を監督するMr. シンカラが州保健局の方針についてプレゼンテーション



ルサカ郡保健局長であるDr. ムシスカも参加し、参加者がワークショップで議論を行った



医療機器管理フィードバックワークショップで集合写真におさまる参加者

感染予防管理(IPC)に関する推進会議をルサカ州保健局で開催

感染予防管理(IPC)は、医療現場におけるすべての患者ケア活動に影響を与えるパーティカルな専門領域です。IPCと水衛生(WASH)は、ヘルスケアの提供と強化を目的としたヘルスケアの質と患者安全にとって不可欠な要素です。効果的なIPCプログラムには、病原体の拡散を防ぐために、すべての医療従事者がそれぞれの役割を果たすワークプランの構築が含まれます。

水衛生に関連する感染予防と管理の優先順位は、安全で十分な水へのアクセス、手洗い、適切な衛生設備、医療廃棄物管理、洗浄と滅菌です。優れた感染予防管理(IPC)およびWASHの実践には、患者、医療従事者、地域社会全体に対する医療後発感染を確実に減らすための、協動的かつ継続的なアプローチが必要です。

そこで、ルサカ州保健局はJICAと共同で、ルサカ州保健局の5つの総合病院を対象に、IPCとWASHのミーティングを開催しました。

その目的は、IPCの対象範囲を理解し、5つの総合病院におけるIPC実施改善のための行動計画を共有し、WASHのインフラと医療廃棄物管理のベースライン情報のためのチェックリストを共有することでした。

ルサカ州保健局長を代表して

行われたスピーチで、Dr. チョングは、「病院の環境における水衛生設備、手指衛生に関連した感染予防管理(IPC)は重要である」と述べました。病院は、医療提供中に感染症にかかるリスクのある主要な医療施設であり、世界的に大きな課題を抱えています。

ルサカ地区では、ほとんどの病院スタッフがIPCとWASHの教育を受けていますが、医療関連感染、頻繁なアウトブレイク、安全でないケア、コミュニティでの感染拡大などの課題が、依然として州内の大きな関心事となっています。

そのため、病院におけるIPCプログラムの実施には、IPCヘルスケアパッケージの導入、病院管理者のコミットメント、手指衛生の遵守状況の改善、医療廃棄物管理、医療関連感染(HCAI)サーベイランス、抗菌薬の適正使用、オペレーションリサーチの結果の実践への移行、微生物学検査室の機能向上が必要です。感染対策に注力することで、資源に限りのある病院でも、将来的に医療サービスの質を向上させることができるのです。

IPCが効果的に実施されれば、医療関連感染、薬剤耐性、コレラ、エボラ、COVID-19を含む重症急性呼吸器感染症(SARS)などの疾病の発生が減少し、労働安全衛生の改善、スタッフの満足度が向上し、良質で安全な医療サービスの提供が可能となり、施設ベースの医療サービスの普

及につながるのです。

Dr. チョングは、ルサカのヘルスセンターを一次レベル病院にアップグレードする無償資金協力プロジェクトのフェーズIとフェーズIIを通じて、医療提供システムの強化に貢献した日本政府とJICAの支援に感謝しました。

また、IPCは患者や医療従事者が予防可能な感染症に罹患するのを防ぐことが証明されている、実用的でエビデンスに基づいたアプローチであるため、病院経営陣が協力してIPC医療パッケージを成功させるよう呼びかけました。

カシオペアプロジェクト チーフアドバイザーの法月は、IPC活動とIPC対策の重要性について発表し、IPCは総合病院の医療の質にとって非常に重要であり、それはすべての医療従事者、患者、学生、地域社会を含むものであると述べました。手指の衛生管理は、WHOの”5 moments hand hygiene”に合わせて、全ての患者のケアや医療業務を行う際に考慮されるべきものです。

5つの総合病院には5台のノートパソコンが贈呈され、IPCの向上のためのサーベイランス活動に役立てられます。患者さんとスタッフのために安全な環境を維持することは、医療従事者一人ひとりの義務であり、その責任を自覚することが大切です。



IPCに関する推進会議において、法月チーフアドバイザーからチャワマ総合病院のIPC担当Ms.アルベニアとチャンダ院長、州保健局のDr. チョングにノートPCが引き渡された



IPCに関する推進会議で集合写真におさまる参加者

インタビュー 『プロジェクトへの期待と 5つの総合病院で認めら れた変化』 州保健局長が語る

カシオペアプロジェクトは、ルサカ州保健局長(LPHD)のDr. コンシティー・ムワレと面会し、プロジェクトに対する期待や、5つの総合病院の経営能力強化のためのプロジェクト開始以来、これまでに見られた変化についてインタビューを行いました。

Dr. ムワレは、JICAとのオール・ウェザー・パートナーシップにとっても興奮していると述べました。なぜなら、JICAは、保健省がルサカ州内の人々に質の高い医療サービスを提供することを支援するための重要な手段だからです。カシオペアの名の通り、JICAの総合病院運営能力強化プロジェクトを通じて、ルサカ州の人々に質の高い医療サービスを提供するという私たちの主要な目的を達成することができません。このプロジェクトには、運営管理能力の強化や、公衆衛生チームと総合病院との協力関係から生まれる、いくつかの副次的な効果もあります。

総合病院のチームは、サプライチェーンの管理、医療機器の設置、メンテナンス、特に感染予防の問題に

関する知識やスキルの移転を行うため、技術支援や周辺施設の指導を行う役割を担っており、特に公衆衛生セキュリティが重要な優先事項となっているCovid 19の時代には、このような取り組みが必要となっています。

さらにDr. ムワレは、プロジェクトが始まって以来、各チームが作成した情報を使って施設レベルを分析し、何がギャップとなりうるか、そしてそのギャップをどのように対応・管理するかを理解することに、より大きな関心を寄せている、と述べていました。例えば、これまでのサプライチェーン・マネジメントでは、サプライチェーンの中央・中間レベルのマネジメントに重点が置かれ、施設に届くものはあまり重視されていなかったと言います。

しかし、このプロジェクトが始まると、一般市民に薬を配る最後の段階、病棟の薬局や外来の薬局で、説明責任を果たす必要があることに気づかされたのです。中央レベル、中間レベル(州レベル、地区レベル)、施設レベル、そして施設内の産科病棟、外来部門、ART部門など、医薬品が使用される様々なエリアでのサプライチェーン全体で医薬品が説明されるように、スタッフと共にさらに強化されることを願っていると述べました。

さらに、感染予防管理(IPC)の分野でも、感染の可能性がある人とそうでない人を明確に選別し、一般的な患者の流れを管理する方法が変わったとDr. Mwaleは語りました。一般的な患者の流れにそのまま乗ってはいけないCOVID-19アウトブレイクのような緊急事態では、5つの総合病院のそれ

それで明確に区分されたシステムで、患者は入口で識別され、適切なトリアージを受け、ほぼ即座に対応できるようになりました。Dr. ムワレは、JICAの支援によるカシオペア・プロジェクトは、感染症、特にCOVID-19と緊急事態のトリアージ方法の強化に非常に役立っていると付け加えました。

そのため、保健省として我々は、保健センターや保健ポストといった小規模な施設だけでなく、産科や婦人科のあるマテロ総合病院のような大きな病院でも能力開発を推進し、技術支援や指導を続けてきました。さらに、総合病院のキャパシティが拡大するにつれ、総合病院に患者を紹介している施設の運営を監督するのは全てのスタッフの責任であることを強調しました。

最後に、Dr. ムワレは、ザンビア国民とザンビア政府のパートナーである日本国民と日本政府に対して感謝の意を表しました。



ルサカ州保健局長(LPHD)
Dr. コンシティー・ムワレ

フォトフォーカス: カンヤマ総合病院における5S活動



編集・デザイン: エレン ムティナ チピリピリ
編集長: 法月 正太郎

連絡先
法月 正太郎 ルサカ郡病院運営管理能力強化
プロジェクト チーフアドバイザー

住所: Plot No.11743A, Brenwood Lane,
Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka, 10101,
ZAMBIA

E-mail: cassiopeia.project.zm@gmail.com
Website: <https://www.jica.go.jp/project/>

5つの総合病院における5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)の取り組みによる大きな貢献は、質の高い安全性の生産と、持続可能なパフォーマンスのためのワークスペースの有効活用につながるものです。